



令和元年12月2日

研究主題 「考えることを楽しむ！」

～文教大学付属小学校型 ディープアクティブラーニング
学びの深化を目指して「自分の考えをもち、伝え合い、高め合う力を育む」～



令和元年12月2日(月)、今年度最後の校内研究授業を行った。
第5回目は、国語。2年1組 大塚隆夫教諭が『おにごっこ』、5年1組、古川弘美教諭が、『大造じいさんとガン』を行った。

大塚教諭は、本文の段落を入れ替えたプリントをもとに授業を展開した。子どもたちは、段落の初めの言葉や、内容から、段落の順序を思考し、話し合った。3人グループで和気藹々と話し合う子どもたちの雰囲気から、学びに向かう意欲を感じることができた。前時に立ち返りながら、段落を正しく並び替えるという活動を通して、「なぜ、この順序になっているのか」を

考えることができたのではないだろうか。

古川教諭は、情景描写に着目して、大造じいさんの心情を読み取る授業を展開した。子どもたちは、叙述をもとに大造じいさんの心情を考え、自分の意見を構築した。本文と対峙しノートを書く姿に、一人ひとりの学びの深まりを感じることができた。その後、意見の交流を行った。一つの情景描写から様々な意見の発表があり、活発な交流となった。また、いままでの子どもたちのノートからも、書くことで考えを広げていったのだと感じることができる授業であった。



研究協議会では、東京学芸大学付属世田谷小学校の西川 義浩先生を講師としてお招きし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。

講評では、いかに子どもたちのノートに立ち返って授業を行うことが大切なのか改めて考えることができた。この教材だったら、何を学ばせるとよいか……。学びの見通しを子どもたちが持っているのか……。

その答えは、すべて子どもたちの感想に表れ

ているといっても過言ではない。子どもの学習感想から、問いを作り様々な形式で交流を行うことの良さを教えていただいた。これからは、いままでの一斉授業の型にとらわれずに、対話の活性化を目指し柔軟な活動を考えていく必要がある。今回教えていただいたことを、これからの授業に生かし、来年の校内研究をよりよいものにしていきたい。

